幸縁

真如苑・名古屋NGOセンター
協働事業

東海地域NGO
活動助成金
報告書

2024年度

ベニン・ブラザーホッド・東海

セイブ・イラクチルドレン・名古屋

RASA

かけこみ女性センターあいち

かけこみ
女性センター
あいち

CONTENTS

主催団体からのメッセージ …… 3

宗教法人 真如苑
特定非営利活動法人 名古屋NGOセンター

助成団体報告書

1. かけこみ女性センターあいち …… 4

困難な問題を抱える女性支援のための援助者養成事業
助成金額　15万円

2. NPO法人幸縁 …… 6

グアテマラ現地学習塾の継続運営事業
助成金額　20万円

3. （特活）セイブ・イラクチルドレン・名古屋 …… 8

イラク人医師の愛知県内病院での医療研修
助成金額　20万円

4. ベニン・ブラザホッド・東海 …… 10

子どもたちの貧困の連鎖を断つための学習環境の改善
助成金額　20万円

5. （特活）RASA-Japan …… 12

生活困窮家庭の学童への食品配布支援
助成金額　20万円

公募要項 …… 16

主催団体からのメッセージ

「東海地域NGO活動助成金」は、東海地域を拠点に活動するNGO団体の活動を支援し、その発展に寄与することを目的に、宗教法人真如苑と名古屋NGOセンターの協同事業として2009年度より始まりました。ここに第16回目である2024年度の助成事業の報告書をお届けいたします。

当年度は6団体からの応募をいただきました。外部有識者を含めた選考委員会による厳選な審査の結果、5団体が助成を受けました。

真如苑の関係者の皆様のご協力に、改めてこの場でお礼を申し上げます。今後とも東海地域の中小規模NGOの成長にお力添えをいただきながら、新しい価値観や社会の在り方を求めて活動し、連携できることを願っています。

なお現在、2025年度（第17回）の助成事業が公募によって決定しております。

真如苑（しんにょえん）について

真如苑は開祖・伊藤真乗（しんじょう）（1906～1989）が昭和11（1936）年に開いた仏教教団です。開祖は真言宗醍醐派総本山醍醐寺で得度し、伝統仏教の法流を悉く受け継ぎました。その後、仏典を研鑽の末、仏遺言の教え・大般涅槃経を中心とする真如苑を設立。現在は、伊藤真聰が真如苑の苑主として教団を代表しています。真如苑は、大般涅槃経に説かれる大乗利他の精神を、日々の社会生活に活かす実践を重んじます。
真如苑の社会貢献活動は、開祖が願って止まなかった人類の至福と世界平和を現代にあらわしていく営みのひとつです。

助成団体報告書
No.1

困難な問題を抱える女性支援のための援助者養成事業

困難な問題を抱える女性のための支援に関する法律（女性支援法）により相談対象が拡大されたことで、援助職者として日々の支援対応をする上で必要なことについて学びの提供をする。内容は3コマ、女性差別社会についての学び、援助職者の立ち位置、かけこみあいちについて支援対応など学ぶ。

事業の背景と目的

〈背景〉女性支援法が制定されたことにより、相談現場では対象者が拡大され、相談の内容も多様になってきている。今までのようなDV被害者や性暴力被害者のみならず、対象が拡大されたことで、日々の支援対応が抱える困難さが一層増えてしまったと思われる。

〈目的〉上記のような背景があるとしても、支援の基本、押さえておくべきことはある。差別的な社会構造を具体的に知ること、知ったうえで援助職者として自分が目の前の相談者にどう関わっていくのか、自分自身に向き合うことなしに援助はできないことを知る。立ち位置がぶれることだってある。立ち止まり、振り返りしつつ、当事者と一緒に歩みを進めることはできる。そうした気づきを持つこと。最後に、民間シェルターとしてのかけこみあいちという団体の基本姿勢、具体的な支援対応について理解をしてもらうこと。

事業の内容

※1日に3コマという開催方式にしました。参加者としては、既に対人援助職に関わっている人の参加が多かった。

『女性に対する暴力被害者への対人援助について学ぶ』
■日時：2025年3月15日（土）　■会場：イーブルなごや視聴覚室　　■参加者数：16人

1. 『日本社会における女性差別について』10時～12時
◎講師：山口佐和子さん　愛知学泉大学家政学部ライフスタイル学科教授　元ワシントン大学ソーシャルワーク学部客員研究員　元国立大学法人九州工業大学男女共同参画推進室特任准教授
◎内容：日本における女性差別は、歴史的、社会的、文化的な要因が絡み合った複雑な問題です。職場での格差、育児とキャリアの両立、社会的な期待や役割、政治参画等さまざまな問題に対して、女性の権利向上を目指す動きや、政府による政策の改善が進められていますが、依然として多くの課題が残っています。社会全体での意識改革が求められ ています。皆さんと一緒に知識を深めていきたいと思います。

2. 『女性支援、女性相談とは』　13時～14時30分
◎講師：石田　ユミさん　臨床心理士・公認心理師。女性相談を中心に、相談、スーパービジョン、研修を行う。女性相談に関心が深く、相談員のケアー、育成に長く力を注ぐ。また次世代の育成として大学、専門学校の非常勤にも従事
◎内容：女性がおかれている社会の状況は「女性への暴力」DV、性暴力、虐待、セクシュアルハラスメントなど問題はより複雑になっております。女性相談は、個人の問題の背景には、社会の問題があると捉え、ジェンダーの視点により、相談者の問題解決や心理的回復をはかることが不可欠です。女性が自分の人生において自己決定できるように支援するための女性相談を皆で考え、学びます。

3. 『かけこみあいちの活動』　14時50分～16時
◎講師：かけこみあいちスタッフ
◎内容：かけこみあいちの活動について説明。1996年発足の民間シェルター。DV被害者支援を主な活動としている団体。 設立当初から今に至るまでの活動及び当事者支援における対応などついて具体的に説明する。

助成団体報告書

No.1

かけこみ女性センターあいち

女性に対する暴力被害者支援（DVや性暴力被害や性暴力、親からの暴力被害など）が暴力渦中から抜け出し新たな生活を始められるようにシェルター運営、電話相談、情報提供、同行支援などをしている。

〒460-0012 名古屋鶴舞郵便局留め
TEL：050-3045-9501　FAX：050-3045-9501
e-mail：kakekomi3@outlook.jp　URL：http://kakekomi3.com

活動の成果と課題

〈成果〉1コマ目の研修にて、対人援助職者の方たちにとって日本における女性差別社会のあり様を歴史的背景、データなどから学ぶことができたと思う。興味深いこととして、世代（Z世代、ミレニアム、X世代）ごとにジェンダーに関する認識が違うということに気づき、自分の意思を持つことの大切さに気付いたという感想があった。

2コマ目は、歴史的差別の視点を対人援助職者としての学びがテーマ。女性支援、女性相談の基本姿勢を、事例をもとに2人組でワークを経験するなどした。相談者の背景をどう読み解くか、その際の相談者である自分自身の価値観、考え方の傾向などを考慮しつつ評価でなく、見定めることの大切さを学ぶことができたと思う。

3コマ目では、今まであまり明らかにしてこなかった団体の発足経緯、NPOを取得せずに安全を第1優先として活動をしてきた基本姿勢、社会の変化とともにケース内容、支援内容も変化してきた具体例の紹介をすることで、「かけこみあいち」という民間シェルターの基本姿勢、支援内容を知ってもらえたと思います。

〈課題〉とても興味深い感想を残してくださった参加者たちが、日々の支援継続において、今回の研修の内容をどう生かしてくださるのだろうかと期待したいことと、かけこみあいち自体は活動継続の困難さは相変わらず変わっていないということ。

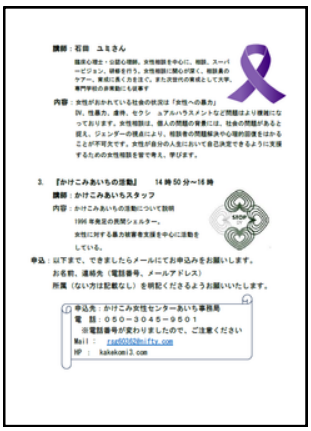
2025年度かけこみ女性センターあいち主催
東海地域WOO活動助成金活用講座
『女性に対する暴力被害者への対人援助について学ぶ』

1996年発足の民間シェルター、かけこみあいちが久しぶりに対人援助に関心のある方向けの講座を開催します。スタッフの高齢化に伴い、人材は枯渇するばかり、活動そのものも継続が危ぶまれている状況です。本来、一緒に支援対応をしてくださる方がいればいいなぁ、そうでなくても、援助に関心のある方と共関として連携ができればという思いから、今回助成金を活用して開催することにしました。多分最後としては、これが最後になると思います。2025年4月以降は、別の助成金活用にて新1日の講座を開催予定です。そうご期待、内容については、未定です。

日時：3月15日（土）10時～16時30分　計3コマの研修内容です。
会場：イーブルなごや視聴覚室
対象：対人援助に関心のある方、現在対人援助者であるが、支援について学び直しをしてみたいという方
参加費：1コマ　1000円　計　3000円
所で きれば、3コマ通しての参加をお願いします。
内容：1.　『日本社会における女性差別について』10時～12時
講師：山口佳和子さん
愛知学院大学家政学部ライフスタイル学科教授
元ウシントン大学ソーシャルワーク学部客員研究員
元国立大学法人九州工業大学男女共同参画推進室特任准教授

内容：日本における女性差別は、歴史的、社会的、文化的な要因が絡み合った複雑な問題です。職場での格差、育児とキャリアの両立、社会的な期待や役割、政治参画等さまざまな問題に対して、女性の権利向上を目指す動きや、政府による政策の改善が進められていますが、依然として多くの課題が残っています。社会全体での意識改革が求められています。皆さんと一緒に知識を深めていきたいと思います。

2.　『女性支援、女性相談とは』　13時～14時30分


講師：石田　ユミさん
臨床心理士・公認心理師、女性相談を中心に、相談、スーパービジョン、研修を行う。女性相談に関心が深く、相談員のケアー、実戦に長く力を注ぐ。また次世代の実践として大学、専門学校の非常勤にも従事す

内容：女性がおかれている社会の状況「女性への暴力」
DV、性暴力、虐待、セクシュアルハラスメントなど問題はより複雑になっております。女性相談は、個人の問題の背景には、社会の問題があると捉え、ジェンダーの視点により、相談者の問題解決や心理的回復をはかることが可能な ので、女性が自分の人生において自己決定できるように支援するための女性相談を皆で考え、学びます。

3.　『かけこみあいちの活動』　14時50分～16時
講師：かけこみあいちスタッフ
内容：かけこみあいちの活動について説明
1996年発足の民間シェルター、
女性に対する暴力被害者支援を中心に活動を
している。
申込：以下まで、できましたらメールにてお申込みをお願いします。
お名前、連絡先（電話番号、メールアドレス）
所属（ない方は記載なし）を明記くださるようお願いいたします。
申込先：かけこみ女性センターあいち事務局
電　話：050－3045－9501
※電話番号が変わりましたので、ご注意ください
Mail：　rae60262@nifty.com
HP：　kakekomi3.com

参加者募集チラシ

実施事業での現地もしくは参加者の声

・日本社会にある女性差別の動向や制度上の問題点について、労働、教育、政治の領域で、戦後から現在までの歩みを整理して学ぶことができ、大変勉強になりました。
・支援と相談の基本を考え、ふり返ることができました。いつもの事ですが、納得!!　うなずく事多し。
・かけこみあいちさんの活動の歴史をあらためて学ぶことができて、とても有難かったです！「社会活動として発足された」というお話の通りに、具体的な支援をどのようにするのか、相談者との向き合い方も、社会の仕組から起きている暴力である、という視点から考えられ、取り組まれていることが、とてもよく伝わってくる内容でした。

事業実施団体のひとこと

日本がまだまだ女性差別社会であることを認識し、そこに起因する女性への暴力被害者支援について参加者とともに学び合う機会を得られたことはよかったと思います。講師の方にも感謝する次第です。

グアテマラ現地学習塾の継続運営事業

グアテマラ共和国ソロラ県サンティアゴ・アティトラン市において、小学生を対象とした活動地初の学習塾を2023年夏から現在に至るまで運営してきた。学習塾の教育目的は、読み書き計算の基礎学力定着とリベラルアーツ教育を通じて未来のコミュニティリーダーたる人材を育てること。2024年11月現在、25名の塾生と４人の学習塾スタッフとともに週２日（午前・午後ともに開講）活動している。

事業の背景と目的

グアテマラの公立小学校は教員の学力不足やストライキにより、全ての学習単元が終わることなく子供が卒業していくケースが日常である（それ故に現地教員から優秀と評される子供ですら６年時点でも四則演算がままならなく、日常的に使用するスペイン語のスペルミスが作文時に目立つ状況である）。また義務教育である小学校の生徒在籍率も５割程度で、教育に対する一般意識は決して高くない。このような現状は、学力を本気で得たいと思う者には不十分な学習環境であり、また日常の生活において学を活かす場面も見出し辛いため、教育への興味関心が改善される機会も得難い。そこで、学校以外の学びの場・キャリア形成における学の活かし方を考える場として、2023年夏に活動地初の学習塾『アカデミア100（シエン）』を起ち上げた。

本事業は現地学習塾の継続的な運営を第一の目的とし、活動地における認知の拡大と学習塾という概念の定着を図る。学習塾では読み書き計算といった基礎的な学力強化に加え、思考力や社会性等を鍛えるためのリベラルアーツ教育にも力を入れた学習環境を現地の子供たちに常時提供していく。

事業の内容

2024年11月時点での指導内容は、計算・音読・作文・読書（＋読み聞かせ）・楽器演奏・描画・英語・特別活動の8分野。本助成にて2024年4月～2024年7月の活動費をサポートいただき、この間週２日のクラス（午前・午後で計４時間/日）を常時開講することができた。また併せて以下の活動も行った。

◎５月：読み書き計算の反復練習指導（本塾では陰山メソッドを採用）とその本来の意義を真に理解するため、陰山メソッドを学校全体で数年取り組んだ佐賀県公立小学校の元校長先生に講師をお願いし、10週間のオンライン研修を実施。現地塾スタッフ全員が受講した。メソッド考案者の陰山先生がゲスト講師として登壇される回もあった。

◎６月：JICA中部主催の報告会にて、現地学習塾の成果発表を実施。現地の授業風景をライブ中継にて初公開し、塾生・保護者・塾スタッフのコメントも同時に生配信した。
また、特別活動の一環として子どもたち主体で「村の課題に対して自分たちは何ができるか？」を話し合う学級会を実施。子ども達が見つけたテーマは、道端のゴミ問題と森林伐採。これに対して自分たちができることを短期・中期・長期に分けて話し合い、グループ毎に発表し合った。同月下旬、村内のゴミ拾い活動を実施。
※国内で特別活動と称される学級会、清掃、日直などの教育活動はグアテマラの学校ではほぼ実施されていないが、主体性・協調性・社会性を育むとして本学習塾では積極的に取り入れている。
特活についての参考URL（JICAサイト）↓
https://www.jica.go.jp/Resource/publication/mundi/1904/201904_03_01.html

◎７月：学級会のもうひとつのテーマ「森林伐採」の解決案としてあがった植林活動の実施に向けて、活動地の市長と面会し、植林の実施許可申請とともに本学習塾活動の説明機会を得る。

助成団体報告書

No.2

NPO法人幸縁

グアテマラと日本の両国にて小中学生を主対象に教育活動を実施。また教育活動を通じて、日本－グアテマラ間における顔が見える人的交流を大切にしている。

〒448-0001　愛知県刈谷市井ヶ谷町中前田４３番地
TEL：070-8992-7661
e-mail：shienpor100@gmail.com　URL：www.shien100.org

活動の成果と課題

〈成果〉継続的に塾の運営を続けてきたおかげで活動地内の認知度は着実に上がってきており、学習塾という施設の存在が活動地内で定着しつつある。塾への問い合わせや入塾希望者も口コミの効果で定期的に連絡が入るようになっており、ニーズの増加が伺える。指導内容の見直しと改善もスタッフ間と連携しつつ行えており、今期は特に基礎学力（読み書き計算）と集中力を身に付けるカギとなる陰山メソッドの共通理解を現地スタッフ間で深めることができた。

〈課題〉塾生の増加に伴う塾スタッフの増員をしたいが、グアテマラの公立学校では見ない指導法を取り入れているので、スタッフ研修を丁寧に行う必要がある。よって先を見越した早めの募集と人材育成が急務。またスタッフ人件費について、現時点では国内の助成金で大部分を賄っているため、今後は自足する手段を作り出すことが必要。アイデアはあるので来期はそれを形にできるよう実施する体制を整えていきたい（やりたいことはあれどもそれを実行する人員が常に不足しているので、実行体制の整え方を学ぶのも課題のひとつ）。

集中して計算練習に取り組む塾生たち

読書活動
教室や中庭で好きな本を読む

課外活動にて村内のゴミ拾い

楽器演奏
ピアニカとリコーダーは日本からの寄付

実施事業での現地もしくは参加者の声

・塾の授業でいろいろな本を読んだり（※村内には本屋がないため、本を読める機会はごく限られている）、現地では触れる機会が少ないピアニカやリコーダーを演奏できたりするのが特に楽しい（塾生の声より）。
・子どもがアカデミア100に行くことをとても楽しみにしており、特に計算力が大きく伸びていることを感じている。このような学びの場をこの村（活動地）に作り出してくれたことに感謝したい（塾生の保護者の声より）。

事業実施団体のひとこと

地球の裏側の子ども達と直に繋がることができる里親制度・国際交流・英語指導ボランティアといった教育活動を通じて、日本とグアテマラ双方に幸がある縁作りを大切にしています。

助成団体報告書
No.3

イラク人医師の愛知県内病院での医療研修

2024年10月１日から11月30日まで、あいち小児センター心臓外科と名古屋大学病院小児心臓病センターで、イラクのモスルからの心臓外科医ザイド医師が小児心臓病の研修を行い、中京病院小児心臓病センターもこれに協力した。また、同年10月１日から10月末日まで、同じくモスルからの消化器外科医ウィサム医師が愛知医科大学病院消化器外科で研修した。当会としては、受け入れ病院との調整と許可手続、日本入国手続、研修を含む日本での生活全般を支援した。

事業の背景と目的

当会は2003年よりイラク支援の活動を継続しているが、イラク側から最も希望の強い支援方法が「医師研修支援」である。イラク市民は、経済制裁、先進国からの戦争攻撃、内戦、過激派による占領・解放と国際情勢に翻弄され続け、医療部門も復興と破壊を繰り返している。度重なる戦争と内戦による環境汚染、生活環境の悪化による疾病の増加等医療サービス充実の必要性が増しているのに、「ヒト（医療者）」「モノ（医療設備）」いずれもがそれに追いつかない状況である。

今回の招聘計画は、先天性心臓疾患の子どもの救命率を上げるということが目標であった。イラクではかなり高い確率で先天性心臓疾患の子どもが誕生する。日本はじめ先進国では、胎児時での手術や、生後すぐの手術で救命できる子どもが多いのに、イラクでは体重12kgを超えないとそもそも手術対応ができない。国外移送でしか救命できないのが実情である。「現在より少しでも低年齢の心臓手術を実現できるようにしたい。」として、そのための医師研修を支援してほしいという要望に応えたのが本事業である（ザイド医師）。なお同時に消化器がんの手術を学ぶ目的での研修も実施された（ウィサム医師）。

事業の内容

ザイド医師は、主としてあいち小児センター心臓外科と名古屋大学病院小児心臓病センターで心臓手術立ち会いを中心に学んだ。手術と言っても様々なものがあるので、この両病院と中京病院小児心臓病センターとで予定される手術を具体的に調整した上で研修が進められた。このようなことが可能になったのは、３病院が常日頃から協力関係に立ち、医師同士もこれらの複数病院での手術を手がけていたことが大きい。主として名大病院の小児心臓病センター長の櫻井教授が３病院の手術予定表を入手し、ここからイラク人医師が学ぶべき手術を選択する計画をたてて、各病院に承諾をとってくださった。

ザイド医師は櫻井教授のコーディネイトした３病院の手術に立ち会い、手術だけではなく術前カンファランスや術後フォローも熱心に学んだ。昼夜を分かたぬ熱心さが周囲の共感をさそい、専門学会への参加も認められた。学会では日本全国からの医師や海外招聘医師と知己を得、つながりを持ち、イラクの心臓手術への支援を求めることにも成功した。

ウィサム医師は、愛知医大病院消化器外科で主としてロボット手術を学んだ。家族の重篤な病気罹患というアクシデントのため、予定研修期間を半分で切り上げなければならなかったことが残念ではあったが、ロボット手術という今後の世界標準の手術例について多く立ち会えた経験を将来イラクで生かしたいとの決意と日本への感謝を語っている。

日本到着翌朝早々に
手術室に飛び込むザイド医師（左）

助成団体報告書
No.3

（特活）セイブ・イラクチルドレン・名古屋

イラクへの医療支援と国際交流活動を始めて20余年になります。現在はイラク人医師の愛知県内の病院での研修支援が主たる事業です。寄付者の皆様、協力医療機関の皆様に感謝申し上げます。

〒460-0002　名古屋市中区丸の内3-5-35　弁護士ビル202　小野万里子法律事務所気付
TEL：052-957-3555　FAX：052-957-3559
e-mail：info@iraq-c.gr.jp

活動の成果と課題

イラク人医師の愛知県内の病院での医療研修はイラク本国においても評価が高い。そのため東京からしばしばイラク大使自らが来名され、研修中の医師を激励し、また日本の医療機関に謝意を表し懇談する機会を持っている。2024年４月には愛知医大病院を表敬訪問され、研修中のオマール医師を激励するとともに大学側に謝意を述べた。同年11月には本件ザイド医師を激励するとともに今後の人材交流を活発にするため、名古屋大学病院とあいち小児センターを訪問された。その大使訪問の記事は名大病院のホームページにも写真付きで大きく掲載されている。

帰国後のザイド医師は、数名の医師とともに、イラク初めての心臓人工弁交換手術に取り組み成功した。この患者さん（女性）は出生時からこれまで成長とともに国外で人工弁交換手術を受けてきており、今後はイラクでこれができるようになったことは大きな福音である。

愛知医大で学生らと交流するイラク大使

名大病院で院長ら指導担当医と懇談

帰国後にラマダンのあいさつをいただく

実施事業での現地もしくは参加者の声

日本で、卓越した技術、思いやり、患者へ献身する専門の医療チームと一緒に働くことができたのは誠に光栄でした。モスルに戻った今、私は日本で学んだことを私たちの心臓外科センターに導入するために懸命に働いています。必要な器具や機材の提供を用意する努力をし、国際基準に合った医療スタッフの訓練も始めました。この素晴らしい機会に感謝し、学んだことを実践してコミュニティにさらに効果的に奉仕することに意欲を感じています（ザイド医師）。

事業実施団体のひとこと

一昨年度に続き昨年度も複数回イラク共和国大使の来名をいただくことができました。小さな活動ながらイラクからも高い評価を受けていることを光栄に思います。帰国したドクターたちが、日本との関係性に誇りを持ち、あまねく「がんばるぞ！！」のモードでイラクの患者さんのために尽くしてくれていることがうれしいです。

助成団体報告書
No.4

子どもたちの貧困の連鎖を断つための学習環境の改善

私たちの出身地、ナイジェリアのエド州には、社会的・経済的に恵まれない子どもが多く存在しています。子どもたちの人生において教育は大変重要な影響を持ちます。ナイジェリアの子どもたちの学習意欲を上げ、貧困の連鎖を断つことを目的として、Uselu Secondary Schoolの教室の修繕を行い、学習のための机と椅子を寄贈しました。

事業の背景と目的

教育は、子どもたちのその後の人生に、長きに亘って大きな影響を与えます。しかし、若年層の人口が急増しているナイジェリアでは、老朽化した学校の設備の修繕や備品の整備が需要に追いついていないのが現状です。今回プロジェクトを実施したUselu Secondary Schoolでも、教室の天井が壊れたままになっていて、酷暑の日には教室内の温度が極端に上がったり、雨の日には雨漏りがしたりという状態でした。また、机や椅子も古い物を寄せ集めているような状態で、机がまっすぐでなかったり、机と椅子の高さがアンバランスだったりと、生徒の体に負担がかかっていました。数も足りないため、窓に腰掛けたり、ドアに持たれて授業を受ける生徒もいました。そのため、生徒たちは学習意欲が上がらず、なかなか授業に集中することができませんでした。しかし、子どもたちが将来の選択肢を広げ、貧困の連鎖から抜け出すためには、教育は欠かせません。政府の対応が後手に回っているうちに多くの子どもたちの将来が失われていくことがないように、故郷の子どもたちの学習環境を整え、貧困の連鎖を断つことを目指して事業を行いました。

事業の内容

ナイジェリアエド州の子どもたちが学習に集中できるよう、快適な机と椅子を寄贈し学習環境を整えるプロジェクトを実施しました。

必要を抱える学校が多く存在する中、ベニン・ブラザホッド・東海のメンバーがそれぞれ情報を収集し、2月～4月の月例ミーティングの中で支援先の絞り込みを行いました。その後、メンバーの1人が5月にナイジェリアに一時帰国した際に学校を訪問して話を聞き、写真や動画を撮影してきました。6月のミーティングの際に、メンバー全員で学校の様子を聞き、写真や動画を見て、机や椅子が足りないだけでなく、教室の天井が抜け落ち、思っていたよりも学習環境が悪かったUselu Secondary Schoolへの支援を決定しました。

学校側と調整を進め、まず、教室の天井の修繕を行うことにしました。天井の修繕については、学校側の協力を得て業者の手配を行い、8月にそのための送金を実施しました。それと同時に、机と椅子の製造先の検討を進めました。ナイジェリア国内の経済状況が不安定なことと、円安とが重なり、資材価格が定まらない中、品質のよい家具をできるだけ安価で提供してくれる信頼できる家具メーカーを探すのに時間を費やしました。ようやく9月になって家具メーカーが決まり、机と椅子を35セット発注しました。椅子は二人掛けのため、生徒70人が使用することができます。

10月後半に完成した机と椅子は、最終学年である3年生の2クラスに寄贈されました。ベニン・ブラザホッド・東海のメンバーの一人が寄贈式に参加し、生徒、保護者、教師などの学校関係者に向けて、教育の重要性について語りました。直接的な受益者である3年生７０人だけでなく、２年生８８人、１年生９４人を含む２１７人の全校生徒全員が、学習環境が整えられたことに大変励まされました。

寄贈した机と生徒たち

助成団体報告書

No.4

ベニン・ブラザホッド・東海

ナイジェリア連邦共和国エド州出身で日本在住のベニン人（部族）ならびにそのルーツを持つ者の相互扶助。メンバー同士の雇用や生活面における相談や協力ならびにナイジェリア国内で社会的・経済的に恵まれない状況にあるベニン部族の人々や子どもへの支援を行う。

活動の成果と課題

壊れた天井の修繕と新品の机と椅子の寄贈は、生徒たちの学習意欲に大きな影響を与えました。学習環境が整えられたことで、自分たちのことを気にかけ、励ましてくれる人たちがいるというメッセージが伝わり、生徒たちの自己肯定感と自信が上がり、将来に向けて勉強するという前向きな姿勢に繋がりました。そのことは、身近で見ている教師たちから感謝の言葉と共に伝えられていますが、生徒たちの欠席率と退学率が改善されたことにも表れています。

ナイジェリアの中学・高校は3学期制で、９月～１２月が１学期、１月～４月が２学期、５月～８月が３学期です。前年の2023年度と机と椅子の寄贈を実施した2024年度を比較すると、平均で欠席率が９％から４％に、退学率が７％から２％に、いずれも改善しています。

今回、教室の天井の修繕と机・椅子の寄贈をするにあたって課題となったのは、ナイジェリアの経済状況の悪さとインフレの影響により、資材の値段が上下を繰り返し安定しなかったことです。

老朽化した教室

団体メンバー

天井の修繕

実施事業での現地もしくは参加者の声

今回、教室の天井を修繕し、机と椅子を提供してくださったことに、学生を代表して感謝申し上げます。以前は、座るところのない生徒がいて、教室内はいつもゴチャゴチャとして落ち着きませんでした。新しい机と椅子を提供して頂き、今は生徒全員が快適に勉強することができています。ご支援くださったすべての方に感謝申し上げます。（支援を受けた3年生の学生代表）

事業実施団体のひとこと

事業の実施にあたり、東海地域NGO活動助成金を支給して頂き、ベニン・ブラザホッド東海役員会ならびにメンバー一同、心より感謝しています。直接寄贈を受けた3年生だけでなく１～２年生の学習意欲にも前向きな影響が出ていると、生徒、教師、保護者から感謝の言葉がたくさん届いています。今後も同様の事業を実施していきたいと思っています。

助成団体報告書
No.5

生活困窮家庭の学童への食品配布支援

各学年から20名ずつ選び、合計140児童家族に食品を配布する事業。学校休み期間も配布。毎月2回食品を学校で配布し、児童又は親が受け取りに来る。食品はRASAの支所が購入から配布袋に詰めて学校へ運ぶ。1回に米5KG 、卵6~8、粉ミルク6~8缶詰 4 ,ヌードル 2 袋配布。ボランティアの協力を得て詰める。毎月RASAから費用全額を送金し、食品購入費、配布実行。

事業の背景と目的

欠席の多い5.6年生の児童が学力をつけて、小学校を卒業ができるように、RASAは毎日給食支援を5年間実施したが、2000年3月でコロナ禍以降1年半登校禁止。その間に学童や家族に死者が沢山出た。親が無収入で飢餓状態も多く出たと聞く。コロナ禍の後2021年9月に、学校長の懇願を受けて、従来より予算を大幅増とし食品配布支援に大きく舵を切り替えました。5600人在籍校ですが都会からの強制移住させられた家族が多く極貧困層が多い地域です。移住先には仕事がない、子沢山、親が病弱、親が都会へ働きに出て祖父母による養育が多い。対象児童はやせて背が低く体位貧弱。先生やコーディネーターが学校を休みがちな児童や低体重の児童を各学年から選ぶ。1年を2期に分け140名ずつ延べ280人が対象に選択、通年要支援の児童も約50人います。

事業の内容

現地の物価上昇においても、米は生きるカロリー源で、毎回5kg配布を維持。支援家族には冷蔵庫や台所がない家庭が多いので、食材選択は鮮度維持が不要な食材、また生育期に必須な良質の蛋白質やカルシウムの多い卵や粉ミルク（袋入り）を選び、缶詰はご飯に混ぜて調理不要ですぐ食べられる手軽さと、安全性から選択。安価なヌードルは予算が余った資金で1~2個配布。麺類の嗜好が高いので、配布食品に選択。

資金や出費については、日本からRASAの現地支所の責任者口座に送金。彼は、毎回着金額や、支出額が記載済みの通帳の写真や購入食品レシートや、人件費では、日付とサインの書かれた領収証の写真、収支報告をきちんと送信してくる。食品を市場より安価で仕入れ、貧困者に少しでも多くの食材を配れる配慮に感謝をするばかりである。

RASAが現地訪問時には購入店に出向き価格調査も行っている。割安で仕入れ1回の配布で、米は精米所で1袋25gを28袋購入、卵は卵専門の業者から卸値で購入。買った食品を支所で、近隣のボランティアが半日かかって大袋を140作る。卵だけは配布日に学校に業者が運び袋詰めして、大袋と一緒に家族または児童に渡す。親と話す機会になり指導に役立てている。

大型店で、食品を大量に購入しているところ

助成団体報告書

No.5

（特活）RASA-Japan

よりよい質の教育とまちづくりのために、参加型の研修、参加と共働のプロセスデザイン、 教材づくりなどを行っています。活動を通して環境や人権など様々な課題を解決し、持続可能な未来を築くことを目的としています。

住所：〒460-0004 名古屋市中区新栄町2-3 YWCAビル7F
TEL：070-5333-5566　FAX：052-766-6440
e-mail：nied@love-hug.net　URL：http://nied.love-hug.net

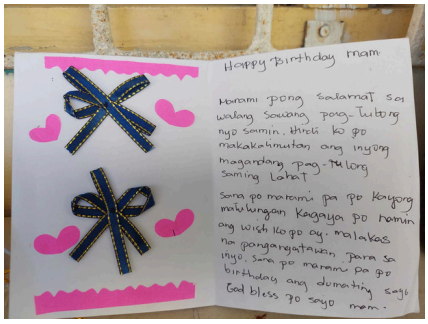
活動の成果と課題

前期と後期の始めと終わりに、支援対象の児童の体位測定が行われている。その結果で支援児童の体位向上がはっきり見られる。対象児童の出欠報告もあり、支援受けて、出席が大きく増えている。朝食を食べて学校に来るので、欠席が減り、授業が理解できるようになり、学習意欲が出て学力が大きく向上してきている。との報告を受けている。

「自分が支援対象に選ばれたけれど、友達も選んであげてほしい。今回選ばれたけれど後半にも支援対象に選んでほしい。」と書かれた手紙をRASAが訪問時にもらって自分の家も貧困だけど、友人も貧しいので、選んであげてという手紙をもらった。この優しい気持ちを知り、胸が熱くなった。寄付金が逓減する中、食品配布の予算350万円が精いっぱいで、その中にコーディネーターの人件費を含めていたが、今回20万円の支援金を頂けてお陰で、全額350万円を食材費に充当できるので、配布食品数の減少を止められます。

コーディネーターが支援食品を受け取って、受領サインをしているところ。この時いろんな話もする。

仕入れた食品を140の袋詰めにして、米、粉ミルク、缶詰、ヌードルで大袋に、卵は学校で別袋に入れて配布する。



現地の食品配布時に、「次の機会も選んでほしい。また友人も一緒に支援が受けられるように選んでほしい」と手紙を受取った。

実施事業での現地もしくは参加者の声

RASAの支援は、ラグナ州の教育省からもこの支援は、これからも、ぜひ長く続けてほしと、要望が来ている。また食品の袋を140準備するボランティアの人たちから、受益者の家族の幸せを願っている言葉を聞くとフィリピンの人たちの連帯意識のすばらしさを感じます。

事業実施団体のひとこと

近年フィリピンは経済成長しているが富の偏在で、特に貧困層はその恩恵に浴さない。不安な仕事しかない。親子離散で暮らし祖父母が孫の生育をする家が多い。現地訪問時RASAスタッフが支援先の住宅を訪問した写真です（13ページ右上）。

東海地域NGO活動助成金
（名古屋NGOセンター・真如苑共催）公募要項

この助成金は、東海地域を拠点に活動するNGO団体の活動を支援し、その発展に寄与することを目的に、特定非営利活動法人名古屋NGOセンターと宗教法人真如苑の協働事業として2009年1月に設立されたものです。助成資金は真如苑からの寄付によるもので、名古屋NGOセンターはこの寄付が有効に生かされるよう、本要項にそって助成団体を公募します。

１．対象団体
愛知、岐阜、三重、静岡県内に活動拠点があるNGO団体で、申請時において設立後３年以上経過し、継続的な活動実績がある団体。法人格の有無は問いませんが、民主的で開かれた組織運営がなされていること。応募は1団体につき1件のみとします。なお、前年度までに採択された団体または事業も応募することができますが、直近の３年間で複数回本助成金を受けている場合には、優先順位が低くなります。

２．助成対象期間
（１）2024年4月1日から2025年3月31日の間に実施する事業を対象とします。
（２）すでに実施中で2024年度も継続する事業や、2025年度以降も継続する事業も応募できます。この場合、上記（１）の期間中に実施される部分が助成の対象となります。
＊事業の実施場所は国内、国外を問いません。2025年5月末までに事業実施報告書を提出できることが条件です。

３．採択予定件数と助成金額
6件程度。1件あたり20万円以内、かつ対象事業経費の80%以内。

４．助成対象事業
名古屋NGOセンターのミッションと行動規範を定めた「ステファニ憲章」の精神に合致していれば、特に分野は定めません。教育、保健、医療、福祉などの分野、職業訓練、技術移転、人づくりを通じた自立支援、災害復興、環境保全、多文化共生、その他の人道的活動や啓発活動など、国の内外を問わず様々な活動が対象となります。組織基盤の強化、専門スタッフの育成、広報ツールや一般向け教材の開発、活動の輪を広げることに結びつくようなチャリティ・イベントやファンド・レイジング事業も対象とします。

５．提出書類((1)はメールで送信して下さい。(2)～(4)は郵送または直接持参して下さい。)
(１)助成申請書、事業計画書、収支予算書　各１部
(様式は名古屋NGOセンターのホームページhttp://www.nangoc.orgからダウンロードできます)
(２)団体の定款（会則)、役員名簿　各5部　※助成金交付申請書にwebサイトを記載した団体は省略可
(３)前年度の事業報告書および決算報告書（またはそれらに準じた資料）各5部
(４)会報またはパンフレットなど活動内容がわかる資料3点×5部(重要な箇所それぞれ数ページ程度をA4サイズでコピーしても結構です。この場合も資料3点(コピー)×5部を提出してください。※(４)の資料がない場合は、A4用紙1枚程度で「団体の概要」をお書き下さい。

６．応募受付期間
2023年12月19日（火）～2024年1月23日（火）必着

７．応募書類提出先、問い合わせ先
〒460-0004　愛知県名古屋市中区新栄町2丁目3番地YWCAビル7階
特定非営利活動法人　名古屋NGOセンター事務局
TEL&FAX:052-228-8109　e-mail:info@nangoc.org
※応募書類受領後、当該団体または担当者様に受領確認のメールを送ります。応募締切日より5日を過ぎても受領確認のメールが届かない場合は、上記事務局までお問合せ下さい。

８．選考方法および結果通知
（１）選考は、外部有識者等で構成される選考委員会により厳正に行われます。
（２）第一次選考：　申請書類に基づいて行い、2024年2月20日（火）までに結果を通知いたします。
（３）最終選考：　一次選考通過団体を対象に、2024年3月10日（日）午後、会場未定（１団体５分間程度のプレゼンの後、選考委員による７，８分程度の質疑)。プレゼン（質疑対応含む）は基本的に1団体2名以内でお願いします。新型コロナウイルス感染拡大状況によっては、オンラインでの実施も検討します。
（４）最終結果は2024年3月21日（木）までに通知します。
（５）必要な場合、追加資料のご提出などをお願いする場合があります。
（６）選考過程の詳細や採否理由に関するお問い合わせにはお答えできません。

９．その他
(１)最終選考（公開プレゼン）に進んだ団体には、2名以内かつ合計1万2千円以内で交通費を補助します。ただし、団体事務所の住所を基準に、公共交通機関で往復2,000円以上要する場合に限ります。
(２)助成金の交付は2023年3月下旬までに行います。
(３)虚偽の記載や資金の不適切な使用などが判明した場合は、助成金の全額または一部を返還していただく場合があります。
(４)本助成を受けて実施する事業について、報告や広報媒体への掲載を行う際には「東海地域NGO活動助成金(名古屋NGOセンター・真如苑共催)」を受けた旨を明記して下さい。報道で取り上げられた場合は記事コピーやビデオ等を名古屋NGOセンターに提出して下さい。
（５）事業修了後に助成金額分の領収書のコピーを提出して頂きます（助成期間内の領収書に限る)。

2024年度
東海地域ＮＧＯ活動助成金 報告書

発行者：
宗教法人 真如苑
URL： http://www.shinnyo-en.or.jp

特定非営利活動法人 名古屋NGOセンター
〒460-0004
名古屋市中区新栄町2-3 YWCAビル7F
TEL＆FAX：052-228-8109
E-Mail：info@nangoc.org
URL： http://www.nangoc.org

（特活）名古屋NGOセンターの紹介

名古屋NGOセンターは、貧困・紛争・環境破壊などの地球規模の課題を解決するために、市民が主体となり取り組む活動を支援しています。支援を通して、人権、平和、環境が守られる社会の創造をめざしています。

36 の加盟団体が世界中で活躍しています

- 認定NPO法人 アイキャン
- 公益財団法人 アジア保健研修所（AHI）
- 公益社団法人アムネスティ・インターナショナル日本“わや”グループ
- （特活）アーユス仏教国際協力ネットワーク
- (特活)イカオ・アコ
- 公益財団法人 オイスカ中部日本研修センター
- オヴァ・ママの会
- オリーブジャパン国際開発協力協会
- （特活）キャンヘルプタイランド
- （特活）タランガ・フレンドシップ・グループ
- （特活）地域国際活動研究センターCDIC
- （特活）チェルノブイリ救援・中部
- なごや自由学校
- 公益財団法人 名古屋YWCA
- 南遊の会
- ニカラグアの会
- （特活）NIED・国際理解教育センター
- ハンガーゼロ（一般財団法人 日本国際飢餓対策機構）
- 日本バングラデシュ友好協力会（JBCS）
- ハート・フォー・ザ・ワールド・ジャパン
- フィリピン人移住者センター（FMC）
- 不戦へのネットワーク
- 認定NPO法人　平和のための戦争メモリアルセンター
- ペシャワール会名古屋
- 認定NPO法人 ホープ・インターナショナル開発機構
- 認定NPO法人　インド福祉村協会
- （特活）ボラみみより情報局
- （特活）泉京・垂井
- （特活）DIFAR
- （特活）多文化共生リソースセンター東海
- ビニンブラザーホッド　トーカイジャパン
- （特活）まちづくりスポット
- （特活）ル・スリール・ジャポン
- 認定NPO法人 アジア車いす交流センター（WAFCA）
- 認定NPO法人　ムラのミライ
- 外国人ヘルプライン東海

※（特活）は、特定非営利活動法人の略です。